



只見町ブナセンターだより

企画展

旧田子倉集落の生活と文化

開催期間：2014年1月5日(日)～4月14日(月)



1月5日(日)から開催している「旧田子倉集落の生活と文化」では、田子倉出身の 皆川 弥(みなかわ わたる)氏が田子倉集落の歴史を保存し、後世に残すことを目的に設立した「ふるさと館 田子倉」の展示物をお借りして展示を行っています。日本の高度経済成長を、湖底に沈むことで支えた田子倉集落の歴史と文化、そして 皆川 弥 氏の故郷、田子倉への思いを伝えることが出来れば幸いです。

狩猟・漁労用具の他、生活用品などの民具、田子倉集落の様子を写した写真などの展示解説を行っています。

■ブナセンター講座のお知らせ

八十里古道の歴史

3月23日(日) 13:30～15:00

講師：飯塚恒夫氏 (只見町文化財調査委員)

その険しさから八十里越と呼ばれた道は、一体どんな道だったのでしょうか？その歴史と利用についてお話しいたします。

【活動報告】

■企画展 〈只見の野生動物とその生態〉



2013年10月12日(土)から12月23日(月)の期間で、企画展「只見の野生動物とその生態」を開催しました。

写真入りの解説パネルでは、「只見町にはどんな野生動物が生息しているのか」「ツキノワグマの生態と狩猟との関わり」「北上する大型哺乳類や外来種の侵入」などを紹介したほか、只見に生息する野生動物の生態写真、剥製、頭骨、狩猟用具のほか関連書籍の展示を行いました。来場された方からは、「いろいろな剥製が近くで見られて楽しかった」という感想が聞かれました。

日本に生息している哺乳類のほとんどは夜行性で、普段は中々見ることが出来ない動物も生息しています。彼らがいったいどんな生活をし、人とどんなかかわりを持っていたのかを知る良い機会になりました。これからもセンサーカメラなどを使い、只見町の野生動物の生態を記録していきたいと思えます。

■自然観察会 〈ブナ天然林と歴史の道を歩く〉 10月20日(日)



10月20日に予定していた、「ブナ天然林と歴史の道を歩く」はあいにくの悪天候となり、浅草岳沼ノ平の観察会は中止となりました。その代わりにブナセンターへお越しいただいた中で、希望者を町内に指定された「観察の森」に案内し、観察会を行いました。

今回は、当初予定していたブナの観察会と言うことで、下福井地区と楢戸地区の観察林へ行く事にしました。初めに下福井地区へ、その後楢戸地区へ移動し観察会を行いました。

下福井地区のブナ林は、100年ほど前から「このブナは水源のブナなので切ってはいけない」といわれており、面積は狭いものの、中には直径1mを超える太いブナの木が残っています。

ブナ林の手前はスギ林になっているので薄暗く感じますが、観察の森に指定する際に歩道を整備しており、歩きにくさはさほど感じません。

生憎の雨でしたが、ブナの幹を雨水が伝う樹幹流をなど雨ならではのブナ林を観察することが出来ました。その後、楢戸地区の観察の森へ移動し観察会を行いました。ブナの種子生産の調査のために設置していたシードトラップの説明のほか、栗の種子には食痕を見つけることが出来ました。一体何の動物が食べたのでしょうか？

参加された方からは、自然観察会や写真教室の要望など、たくさんのご意見ご感想をいただきました。今後の観察会やブナセンターのイベント等の参考にしていきたいと思えます。

■料理教室 〈秋の料理教室-只見のそばを食べよう！〉 11月30日（土）



平出美穂子先生（元郡山女子大学准教授）を講師に、秋の料理教室「只見のそばを食べよう！」を開催しました。今回挑戦した料理は、平出美穂子先生監修の“そば丸ごと百珍”から3品選んで挑戦しました。

“ソバ”は、身近な食材ですが蕎麦切りやそば焼き餅の他にどんな料理が出来るのか意外と知りません。選んだ料理は、蕎麦まんぐわ、蕎麦グラタン、さつまいも餅です。使うそば粉は只見でとれたものを用意しました。

初めに、平出先生からソバの栄養価についての説明があり、ソバ粉としての利用だけでなく、そば菜、ソバの実（蕎麦米）の食べ方の紹介がありました。その後、調理にうつりそれぞれのソバ料理が完成しました。



それぞれとてもおいしかったです。個人的にそばの風味が意外にも牛乳とマッチした蕎麦グラタンが印象的でした。平出先生がソバの実を炒って蕎麦茶を作ってくれましたが、これもほっとする味で美味しかったです。

参加された方も、“蕎麦ってこんな食べ方があったのか”と興味津々で、どういう風に調理すればいいのかの質問や、只見町ではどこで手に入れられるのかななどの情報交換を行っていました。

今回のそば料理教室は、少人数の参加募集でしたが、かなり人気があったので“町の食材を使った料理教室”がもっと町内で出来れば良いなと感じました。

■「自然首都・只見」展 宇都宮市 2014年1月11日（土）～19日（日）



1月11日（土）～19日（日）に、宇都宮市で「自然首都・只見」展を開催しました。

この展示は、只見町の自然・文化を町内外に広く情報発信し、「自然首都・只見」の理念の理解と共有を進めることを目的として行っています。栃木県立博物館の共催とご協力をいただき、エントランスホールにおいてパネルと工芸品を主とした展示を行いました。12日（日）と13日（月・祝）には、ブナセンター職員による「只見町の自然と暮らし」と「只見町が登録を目指すユネスコエコパークと地域振興」と題した講演会を行いました。

土日祝日の入場者はおよそ260名、講演会の聴講者はのべ48名で、宇都宮周辺にお住まいの只見町出身の方、只見町に思い入れのある方たちなども足を運んでくださいました。来場者は、町内の写真や工芸品についてスタッフと会話をするなど楽しんでいかれました。

■ブナセンター講座 〈只見町の農村歌舞伎〉 2月16日(日)



2月16日(日)に、ブナセンター講座「只見町の農村歌舞伎」を開催しました。渡部康人氏(奥会津博物館文化財等研究員)をお招きし、奥会津地域の農村歌舞伎についてご講演いただきました。

講演の中で、渡部氏は、歌舞伎の発祥から現代にいたるまでの歴史、奥会津地方の農村歌舞伎文化と、その背景など様々な事をお話しされました。

歌舞伎は出雲の巫女「阿国」による扇情的な芸が発祥だそうです。その後遊女や若衆が演じるようになり人気が出ましたが、江戸時代に風俗が乱れるとして禁止されてしまいます。

その後、なんとか歌舞伎を再興するために、扇情的な芸から演劇的な色彩の強いものに転換し、現在の歌舞伎につながっているとの事でした。幕府は、その後も歌舞伎に規制をかけましたが、民衆は様々な大義名分を使い歌舞伎を行いました。歌舞伎は全国的に広がり、地方では様々な演劇集団が演じる農村歌舞伎が盛んに行われ、人気を集めました。

南会津地域(南山御蔵入地方)では、特に農村歌舞伎が盛んな地域のひとつとされています。

記録を見ると、南会津の中でも只見町は特に歌舞伎が盛んだったそうで、布沢集落の若宮八幡宮をはじめ、町内各所に舞台がありました。特に明治に旗揚げされた「朝日座」は有名で、各地で興業し人気を集め、檜枝岐に歌舞伎の指導に入っていた人もいたそうです。

また、塩ノ又には歌舞伎の大きな貸衣装屋があり、その財力の背景にあったのが、当時盛んに行われていた麻(アサ)の栽培でした。

奥会津地方の歌舞伎の歴史や時代背景、当時の人々の思い、また歌舞伎にのめり込み過ぎて昼仕事に精が入らなくなった笑い話など、歌舞伎について様々な知識を深めることが出来た講演会となりました。

【今後の活動予定】

■2014年度只見町ブナセンター行事予定

開催時期	行事名	備考
1月5日～ 4月14日(月)	企画展 【ふるさと館 田子倉コレクション】 田子倉集落の生活と文化	田子倉ダム湖底に沈んだ“田子倉集落”の展示を行っています。
3月8日(土)	ブナセンター講座 雪食地形と植生	講師：小泉武栄氏 (東京学芸大学)
3月9日(日)	自然観察会 冬のブナ林を歩く	観察地：下福井(観察の森を予定)
3月23日(日)	ブナセンター講座 八十里古道の歴史	講師：飯塚恒夫氏
4月上旬 予定	ブナセンター講座 田子倉の生活	講師：渡部完爾氏
5月3日(土) 予定	自然観察会 残雪のブナ林を歩く	春の自然観察会をGWに予定しています。
5月4日(日) 予定	自然観察会 春植物を愛でる!	春の自然観察会をGWに予定しています。

〒968-0421 福島県南会津郡只見町大字只見字町下 2590 番地「ただみ・ブナと川のミュージアム」内



開館時間：午前9時～午後5時(最終受付は午後4時まで) 休館日：火曜日(祝祭日の場合は翌平日)

入館料：高校生以上 300円 小中学生 200円 未就学児無料(20人以上は団体割引)

■Tel 0241(72)8355 ■web <http://www.tadami-buna.jp>

只見町ブナセンター

■fax 0241(72)8356 ■E-mail info-buna@amail.plala.or.jp